

136号
Summer
2016

まごころ

平成28年度日本ケアシステム協会
第24回全国大会 in 松山



全国まごころケアネット



CONTENTS

巻頭言 愛、忍耐、技術

講演会

平成28年度 理事会・センター長会
通常総会並びに意見交換会

平成28年度日本ケアシステム協会
全国大会 in 松山懇親会

全国大会を振り返って

センターだより

孫子老だより ～健康管理はユーモアと笑顔で～

1

2
～
3

4
～
6

7
～
9

9
～
11

12
～
14

15
～
16

愛、忍耐、技術



特定非営利活動法人

日本ケアシステム協会

会長 兼間 道子



昭和54年11月の肌寒い朝、四国高松でのこと、一人暮らしで認知症のある女性との出会いから在宅訪問が始まった。その後、昭和57年に本会の前身「香川県老人福祉問題研究会」及び「認知症を抱える家族会」が組織化された。あれから早40年の時が経った。発起人として名を連ねた同志7人のうち5人は、すでに天に帰った。

40年前、現在のようなサービスは殆ど皆無だった。昭和57年6月高松総合福祉会館の発会式の会場に680名。登壇した私は「困っている人いらっしゃい」「援助の手をください」と呼びかけ、退場出口の会員募集に記名した人の数は188名。あれから以後、全国各地へ活動の輪が広がり各地にセンターが設置され、要介護者とその家族が恩恵を受けた。涙なしには語れない数えきれないエピソードがあるが、ここでは紙幅がない。各地でのまごころケアサービスセンターが設置されてなかったら乗り切れなかった事例は後をたたない。昭和の全盛時代に数万人の会員を抱え、全国各地で新聞に記事が載り、週刊誌アエラのトップ記事なども目を奪った。

やがて、国は、介護保険制度の導入に至り、福祉サービスメニューも揃い、住民意識は、目に見えて変貌し援助支援を享受した。並行して本会活動は鈍った。たしかに困難を抱えた当事者とその家族にとって介護保険制度によって選択の幅が広がった。時代の変遷の中で本会の役割は終えたかに見えた。そして、営利企業も参入するほど福祉産業が拡大した今日、高齢者の奪いあいや過剰なサービス合戦を呈している。特に介護保険を境に、住民意識が変わり果てた。助け合うよりも福祉を買う選択は手っ取り早く、介護問題が乗り越えられるやにも思えた。

しかし、ここに来て、政府は総合事業を可決、30年3月末までに整えたいと自治体及び市町村へ指示。つまり、介護保険破綻を目前に打つ手は「家族や近隣住民で、助け合いを推進ください」と打ち出したもの。介護認定支援1、2については市町村責任へと移管。既に開始している市町もある。

さて、当法人「まごころケアサービス」は、今後の行方を見据えながら、粛々とひたすら目の前の困難を抱えた人とその家族へ実践活動の手を休めない。掲げる理念は愛、忍耐、技術。その技を、これまでどおり高い使命で推進する。本会の専売特許と評されるタイムストックシステム（時間貯蓄）について総理官邸の円卓会議で総理などと共に住民運動の必要性（日本ケアシステム協会とは）を座談したこともあった。一生懸命に一心邁進することで次の代へ引き継がれるであろう。

小さな働きの中にあっても、実に細やかなところにまでも心を馳せて「本物」を積み重ね磨き続けたい。

日本ケアシステム協会第24回全国大会in松山 講演会

「縁ある暮らしでよりよく死ぬる」

平成28年5月14日(土) 13:30～ 於:松山市道後 にぎたつ会館

平成28年度日本ケアシステム協会第24回全国大会が愛媛県松山市道後において開催されました。

14日午後1時30分から講演会を開催し、愛媛県西条市で独自の取り組みを展開している池内大輔氏、千葉市で宅幼老所などを運営する石井英寿氏を講師としてお迎えし、ご講演いただきました。

お二人とも大規模な老健施設での勤務の経験からもっと対象者に寄り添った取り組みができないか疑問を抱き、独自の施設を立ち上げ現在に至っています。

会場では全国から約100名の仲間の皆様が耳を傾けました。立ち上げ当時は周囲から必ずしも十分に理解されなかった時期もあったとのことですが、地道に活動を続ける中、今ではすっかり地域に溶け込み、支援仲間も増え、更なる取り組みに挑戦している状況について語っておられました。

お二人のご講演から介護のあるべき姿を模索する熱い思いが伝わってきました。何より若い力で頑張っている姿が印象深く、元気をいただきました。

お二人はそれぞれ著書を出版されており、ご講演の内容でもその内容に触れる部分もありましたのでそれぞれの著書から抜粋させていただきました。

池内大輔さんの著書「池さんものがたり」からは、平成17年に独自の施設を立ち上げ、そして10年後の現在の心境をつづった箇所を、また石井英寿さんの著書「人間だから一緒だよ」からは、あとがきの部分から抜粋させていただきました。

講演会講師プロフィール

池内大輔(いけうちだいすけ)

有限会社リベット取締役、愛媛県西条市のデイサービス池さん管理者。

2005年に宅老所を開所。介護保険のデイサービスのほかに、自主事業で、高齢者や障がい者、障がいのある子どもたちを「保険外の通い」「休日の通い」「お泊まり」で柔軟に受け入れている。その後、池さん2号「大頭の池さん」、憩いの場『池さん本店(食事、弁当、配食等)』をオープン。

池さんは、今年10周年を迎えました。長かったようで、あっという間だったようにも感じています。振り返ると、いろんな時がありました。苦しかったり、楽しかったり、悩んだり、迷ったり…。今思い返してみると、どの時も、私たちにとってはかけがえのない大切な時でした。「時」は、いろんなものがたりを語ってくれました。こんな小さな家、池さんという場所で、数限りない『ものがたり』は生まれ続けてきたのです。

池さんという小さな家が、10年もの間、ずっと変わらず目指してきたもの。それは、「普通の暮らし」です。どんなに障がいがあっても、どんなに年をとっても、どんなにボケた人でも、死を迎える人にとってさえ、「特別ではない毎日」ということにこだわり続けてきました。

誰もが当たり前暮らし、今まで生きてきたように生きてゆけること、ただそのことだけを考え形にしてきました。「人が暮らし、老い、そして死を迎える、そのために必要なこと」それは、ただ普通の暮らしの中にしか存在しえないことのように思うのです。

世の中は忙しくなりすぎ、人々は法律やマニュアルや社会の通念に管理されることに慣れてしまったようです。介護の世界も同様です。度々行われる介護保険の改正、そのたびに振りまわされる事業所と利用者たち。

今一度立ち止まって、自分自身の生き方や生きる意味を思い返してみたいと思います。風や空や太陽の光、空気や土、季節の移ろい、素晴らし自然を感じる心のゆとり。生きること・命の在り方・死の迎え方。どう生きたいのか・どう死にたいのか、その意味について、みなさんも少しだけ考える時間やゆとりをもってはどうでしょうか？

ここで過ごす年寄りたちのように、たとえ身体が不自由になろうと、ボケようと、限りなく自由でわがままに、今まで通り変わることなく、生きることの喜びや楽しさを感じてもらえたらと思います。

誰もが老い、死を迎えます。老いて迎える死は、限りなく自然で豊かで、残された人々にも満ち足りた豊かな気持ちを与えてくれるものであるのです。私たちが看取ったすべての人がそうでした。穏やかで温かい死を迎え、残された家族は豊かな気持ちになりました。

人生の最期をどう迎えるのか、この大きなテーマは、「今をどう生きるのか」というテーマに繋がって



ます。池さんという場所が、そんな命のテーマに繋がっている場所であるということを皆さんに知ってもらえたら幸いです。そして、ここに登場する年寄りたちの溢れる笑顔といきいきと輝く表情をヒントに、自らの生き方を今一度考えていただければ幸いです。どうかよりよい時間を生きてください。

この本を通じて縁を紡ぐことができた全ての方々に感謝の気持ちを込めて…。最後まで読んでいただいた皆様、ありがとうございました。

講演会講師プロフィール

石井英寿(いしいひでかず)

有限会社オールフォアワン代表取締役。老健に8年間勤務。2005年に退職し、同年10月に有限会社オールフォアワンを設立。06年1月1日、千葉県花見川区の住宅地の民家で『宅老所 いしいさん家』を開所。同年5月からは居宅介護支援事業所も併設。08年2月に住んでいた自宅を開放して『みもみのいしいさん家』を開所。主に若年性認知症の方を対象とした『仕事』の取り組みをしている。また、『老幼老所 みもみのいしいさん家』を開所し、子育て支援にも力を入れている。

昭和の頃は「豊かさ」が、今よりあった。それは「物の豊かさ」ではなく、「心の豊かさ」。

近所のつながりや団地の雰囲気。兄弟でおんぶしながらの家事手伝い、家族でチャンネル争いをしながらテレビを観たり。豆腐屋さんやさんまの量り売り、メンコやベーゴマやおままごと。紙芝居に駄菓子屋さん……。人とのつながりを持てる場所が、自然にそこら辺に転がっていたように思う。

そんな「普通の生活の中」には、色々教えてくれる人が必ずそばにいた。おじいちゃん、おばあちゃん、近所のおせっかいおばちゃん、注意してくれるおじいちゃん……。子育てや介護にアドバイスできる「自然な環境」があった。というよりも、ごく自然に地域全体で子育てや介護をしていたのかもしれない。

そんな「色々教えてくれる人たち」は、時には自分自身が教科書となり、子どもたちに「人生とは……」ということを教えてくれていた。例えば、その人たちの死が近づけば、子どもたちは「人間は自然に老いてくるとんだ」と理解し、「思いやること」も覚える。

そして、自宅で亡くなると「命の大切さ、今の大切さ」を理解した。

子どもたちは、生活の中で自然に「老い」や「死」を学んでいた。「人間学」というのか。それを直接肌で感じる事ができたわけだ。

そうした生活の中で、縦割りではなく、赤ちゃんからお年寄り、障がいを持った人などのたくさんの人との触れ合いの中で、多様性を認め合うこと、許し合うことも学んでいったのかもしれない。色々な人が居るその環境が「普通」だったから。

今はどうだろう。大家族から、核家族へ。子育て経験をしているおばあちゃん、耳が遠くなり老いてくるおじいちゃんが、そばにいない。また、その時代の移り変わりの背景の中、人と触れ合うことが少なくなってきた。そして、なんでも「向き合うこと」に少なくなってきたように思う。

情報を入れるのはネットやSNSに変わり、そればかりに固執する。そして、周りに合わせないといけないう雰囲気になったりする。また、根拠や、因果関係を求めることが多くなってきて、リスクを考えて枠にはめたり、科学的でないダメだったりする。どうも白黒つけないといけないう世の中になっている感じがする。

介護や育児は、そうはいかない。白黒では片付けられない。その間の色々な色があるからだ。それは、個性であったり、生活歴であったり、関係性であったりと文字通り色々なわけで。頭の中を調べたわけでもないのに「こうであるべき」とは言えない。

人間の根本のところ大切なのに、そこに目が向いていないことが多い。本質はどこにあるのか。と考え、常にこれで良いのかな。と思うことが大切である。

認知症の深い人や、障がいのある子どもたちは、そういったことで社会に一石を投じているのかもしれない。だからこそ、縦割りではなく、色々な人が居て良い場所があることが大切だと思う。そういった場所があれば、小さいときから多様性を認めることができ、そして気づくことができる。また、色々なことを経験者から助言をもらえる。そういった場所が一つでも多くあれば、もっと住みよい社会になっていくと思う。僕は、障がいがあるかなんかろうが、赤ちゃんからお年寄りまでいる「いしいさん家」にそういったことを教わった。「私という存在がそこに居るんだよ」「ただ、そこに居るだけでいい」こういったように、認め合えれば、いい。

こうして日々を感じることを与えてくれる「いしいさん家」のおじいちゃん、おばあちゃん。その家族さん、本当にありがとうございます。そして、亡くなっていった方、その家族さん、そしてなにより「いしいさん家」のスタッフのみなさん、今まで関わってくれたみなさんに感謝いたします。



日本ケアシステム協会 第24回全国大会

平成28年度 理事会・センター長会 通常総会並びに意見交換会

平成28年5月14日(土)・5月15日(日) 於)にぎたつ会館

例年、同日で行っていましたが、今回は14日に理事会・センター長会、15日に総会・意見交換会を行いました。

①理事長・センター長会

平成28年5月14日 16:00~17:00

- 理事総数11名のうち6名出席
- センター総数21センターのうち21センター長(委任状7名)が出席
- 兼間会長が議長となり「平成28年度通常総会付議事項」について審議した結果、異議なく原案通り承認されました。



②総会

平成28年5月15日 8:45~9:40

- 会員総数21名のうち出席者数21名(委任状9名)
- まごころケアぽっかぽか川之江 谷智美センター長が議長に選出され、以下の第1号から第3号議案について審議した。
- 第1号議案「平成27年度事業報告並びに活動決算報告に関する事項」
- 第2号議案「平成28年度事業計画(案)並びに活動予算(案)に関する事項」
- 第3号議案「平成28年度会費・保険料に関する事項」



議場に諮ったところ異議なく原案通り承認される。

③意見交換会

各センターに事前にそれぞれのセンター内で、関心のある事項・困っている事項・逆に成功した事項について3項目を募集しました。その中で、関心の高かった上位4項目について、四つのグループに分け、分科会を行いました。



1班 テーマ《これからの介護サービスについて考える》

発表者 福島センター 遠藤奈穂子

現在でも利用者の高齢化・介護者の人員不足等多種な問題がありますが、これからはもっと問題が多くなると思われます。今後の介護サービスについて話し合いましたので発表します。



1. 今後も高齢者社会が進み、介護される方が多くなることが予想されます。現在は施設に入所されていますが、今後は施設も少なくなります。また、利用者の負担も多くなります。そのような状況の中で、高齢者が4人から5人集まり暮らせるような環境が必要と思われます。
2. 総合事業・居場所づくりをするためには、自分の能力に見合ったポ

ランティア活動を町内会・婦人会に呼びかけていきます。

3. 自分でできる事は自分ですという自立精神を養えるように声掛けを励行していくことが必要と思われまます。
4. 参加者の中でケアマネージャーが多いので、家族のできないこと、本人のできないことを傾聴してケアプランに活かしていきたいと思ひます。

2班 テーマ《現場で求められる介護者とは?》～ケアで困ったらどうする?私ならこうする!～

発表者 にこにこ三豊 藤田証子

まず利用者との“信頼”が大切になります。利用書の信頼が得られるまで待つて、一つ一つ信頼を築いていく必要があります。

次に“家族との関わりを持つ”ことが必要です。介護にとって家族との関係も大切です。利用者と家族との関係が良ければ、ヘルパーと家族との関係も良くなり、利用者により良い介護ができます。そのためにはコミュニケーションをしっかりと取る必要があります。利用者・家族とコミュニケーションを取り、どう生活していきたいのか考えながらケアを行っていくことも大切です。

利用者・家族との関係ができれば、それをヘルパー同士で情報交換をし、研修などで介護の質の向上を図り、ミーティングを行うことで、どの介護者でも同じサービスを提供できるようになると思ひます。

サービスをするにあたって手順書があります。その手順書に沿ったサービスを確認することで、利用者にあつたサービスを提供できます。ただ利用者の体調や状況により、してほしいケアも変わってくる場合があります。そのような時はケアマネに相談をし、各機関が連携を取りながら見直しすることで、より良いケアが行えると思ひます。

以上のように、現場で求められる介護者は常に切磋琢磨し、利用者にあつた介護を行なうことで、チームとして利用者の自立支援につながるケアができるものだと思ひます。



3班 テーマ《私の話、聞いてくれますか?》～介護の悩みとやりがい～

発表者 二本松センター 西間木俊一

普段介護の業務の中で、悩みとやりがいについて発表します。

1. 利用者の食事量が減ってきた場合。これについては、個々で体調等により食事量が違うのは当然と考え、好きなものを食べてもらい、本人が満足感を満たしていれば良いと思ひます。
2. 排泄失敗していながら本人が自覚していない場合。利用者にもプライドがあり強く叱ったりするのは駄目です。時間はかかりますが、地道に声かけをしてコンセンサスを図ることが必要です。
3. やる気がない場合。特に退院後にその症状は顕著です。本人は以前のレベルに戻したい気持ちはありますが、むずかしい場合も多いです。私たちの施設は小規模事業所が多く、例えば食事は時間をかけるなど小規模の良さがあります。良い面を利用してゆくりと戻していくことが良いと思われまます。



4. 在宅訪問時に日々言うことが変わる方もいます。これもケアしながら常に耳を傾けることが必要です。
5. 家族の協力が無い、本人と家族の思いが異なる場合。これは2班でも発表がありました、同じ意見です。家族とのコミュニケーション・利用者とのコミュニケーションの両方が必要です。

以上、色々な意見がありました、対策は“心のケア”をしよう！に尽きると思われます。

4班 テーマ《まごころを担う若手リーダーの養成について》

発表者 国分寺センター 二川実加

このテーマに対する皆様の意見は、「まず、若手のヘルパーさんがいない。求人を出しても来てくれない。」という実情でした。そこで、若手リーダーの養成を考える前に、若い人に来てもらうシステムを考えようということになりました。

1. まごころサービスの良さをネット等でもっと知ってもらう。
2. 若い人とのつながりをどうやって作っていくか。
3. ヘルパーの資格を持っていない人でも出来る仕事を作る。
4. まごころサービスで利用者さんの多様なニーズに応えたい。
5. いろんな分野の人にも介護の楽しさを知ってもらいたい。

等の意見が出ましたが、問題になったのは、ヘルパー2級を持っていないければヘルパー登録が出来ないというセンターが多く、資格を持っている人材の確保がなかなか出来ないということでした。

そこで、4班が出した解決策は、“まごころサービスの二分化”です。

今までのまごころサービスに、専門分野を加えて通常の介護サービスとは別に、マンツーマンの英会話レッスン・粘土教室・写真教室・料理教室・音楽教室・折り紙教室等、利用者さんの趣味の分野を増やし、ヘルパーの資格は持っていないけど福祉に興味のある人材にお願いするという案です。

まごころ会員3,000円を払っていただき、1時間1,000円で教えてくれる人限定になるのでボランティア精神のある人しか集まらないとは思いますが、インターネットで情報を提供し、空き時間の有効利用をアピールすることにより、小さい子供を持つママ達や、やる気はあるけど場所がない若い世代のアーティストに広がっていけば、まごころ会員が増える可能性はあると思います。

また、専門分野の協力会員の入会には、センター長との面接と簡単な試験も必要です。試験内容は介護の業務に向いているかどうか分かる程度の内容とします。仮にこの方法でもっと会員数が増え、まごころの利用者さんの利用も増えていけば日ケアが中心となって初任者研修を開催することが可能になり、資格を持った身近なヘルパーさんの確保ができるようになります。

そして、社会保障などが手厚くなれば、長く働いてくれる人が増え、その中から自然に、まごころを担う若手リーダーが生まれてくるのではないかと、という意見にまとまりました。

また、現在のまごころサービスの良さを大切にしながら、誰もが会員になりたくする新しいシステムを構築することが必要だと思います。





平成28年度日本ケアシステム協会 全国大会 in 松山懇親会



兼間会長あいさつ



まごころサービス岡山センター



まごころケア塩釜



まごころケア旭川



まごころケアサービス
二本松センター

まごころケア丸亀



まごころケアぼっかぼか川之江



まごころ
ケア国見



まごころケアにこにこ三豊



まごころケア国分寺



まごころケアサービス福島センター



まごころケア高松
まごころケア屋島やすらぎ



まごころサービス徳島センター

平成28年度日本ケアシステム協会 第24回全国大会 in 松山 まごころ研修旅行

平成28年5月15日(日)の総会・意見交換会の終了後、まごころ小旅行に出発しました。15日(日)午後からは、松山市内を観光。16日(月)はしまなみ街道に行きましたが、16日は朝からあいにくの雨。県外の方に瀬戸内の島々と穏やかな海を味わってもらいたかったのですが残念です。ただ、各センターの方々と親密になり、有意義な研修旅行でした。

研修日程:平成28年5月15日(日)～5月16日(月)1泊2日

目次	月日(曜)	行 程	宿 泊 先
1	5月15日(日)	道後温泉→→→砥部焼窯元→→→松山市内観光(正岡子規記念博物館・坂上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地)→→→ホテル	椿館 本店
2	5月16日(月)	ホテル→タオル美術館→→→しまなみ街道(耕三寺博物館)→→→広島空港	



全国大会を振り返って

特定非営利活動法人ぽっかぽか川之江 まごころはうす かまやん 管理者 鎌倉裕基

「日本ケアシステム協会全国大会in川之江」では、ご遠方より多くの方々に愛媛へお越し頂き、ありがとうございました。皆様に助けて頂き、何とか無事、大役を務めさせて頂きましたこと、心より感謝申し上げます。振り返れば、至らぬ点が多々あり、これまで担当されてました先輩センターの方の御苦労に頭の下がる思いでございます。



14日、15日は大丈夫だった天気でしたが、16日はあいにくの雨模様で、愛媛と広島を結ぶ、しまなみ海道からの瀬戸内海の景色を見て頂けなかったことが大変残念でした。また機会がありましたら、是非お天気の良い日に、しまなみ海道を渡ってみてください。瀬戸内海に浮かぶ島々が、本当に綺麗です。また、しまなみ海道は、自転車でも渡れるそうです。僕もまだ自転車では渡ったことないのですが、かなり気持ちが良いみたいです。

さて本題に入ります。ここからは、総会までの道のりや思い出話、総会でおこなわれた講演会のことを中心に書かせて頂きたいと思います。突然ですが、僕は、今年で30歳になります。三十路、アラサーです。日本ケアシステム協会(以下、日ケア)発足が、1991年(平成3年)6月となりますので、日ケアは僕が5歳の時に発足されたという計算になります。あの時、今の自分を想像できたでしょうか。日ケア発足当時に思い描いていた福祉の未来は、どんなものだったのでしょうか。介護保険制度がスタートし、今年で16年になります。介護を通じて様々な人と触れ合い、色々なことを想い、感じながら生きていく上で、今回の総会は、僕にとって非常に大きな収穫となりました。

今回の総会は、3年前の「全国大会in福島」以来の参加となりました。あの時、こんなことを覚えています。宿泊ホテルのお土産売り場付近のソファで、兼間会長と、谷(当法人代表)が何か話をしているなどと思ったら、「来年、川之江で総会どうでしょうか?」との内容でした。その時はお断りし、話を聞いていた僕も、どこか他人事のような気持ちでいました。そしてその翌々年、去年の宮城県でおこなわれた「全国大会in塩釜」から帰省後の谷が発した言葉は、「来年、川之江(担当)との話が濃厚です。」とのことでした。僕は、「それはやった方が良いでしょうね!」と言葉を返しました。谷と一緒に総会に参加した理事も、同じ意見でした。勢いあまって出た言葉ですが、ただ総会準備の大変さを知らないが故に、というのはあったと思います。その時すでに、デイの新築工事が進んでおりました(平成28年1月より新築営業開始)。法人にとって節目の年ということ。そして、ぽっかぽか川之江にとって、また一つ、前に進んでいける大きなきっかけになるのではないかなと、そういうことを考えていました。「まごころはうす かまやん」というデイサービスを開所して以降、法人としての

動きは介護保険事業のことばかりが多くなり、残念なことに、ぼっかぼか川之江としての動きは乏しいのが現状でした。だからこそ、今年の日ケアの総会の担当が、ぼっかぼか川之江だということに、どこか大きな意味があるのではないかと。みんなの一つのことに向かっていけるのではないかと。それが、その時の僕の率直な気持ちでした。

しかし、昨年5月時点では、「やりましょう!」という気持ちだったものの、全てが初めてだったので、何から準備をしたらいいのか、最初は雲を掴むような感じでした。そこは日ケアの事務局の方が、しっかりとリードをして下さり、総会の日程、場所、旅行先等、少しずつ決まっていきました。

ここで一つ、大事な事を決めていく段階に入りました。それは、講演会の講師の方をどなたにお願いするか。谷は「鎌倉君に、任せるよ。」と、言いました。「じゃあ、好きにしますよー!」という気持ちで動いた時には、もうすでに頭の中では、講師の方は決まっていました。

経緯はこうでした。ある日、デイの職員が、「この本、買いませんか?」と、持ってきました。そこには、「自分基準。なんでも自分基準で物事を考えてはならない。なんでも思い通りにいくわけがない。人間だから。個性だから。」と書いてありました。本のタイトルは、「人間だから、一緒だよ。」。著者は、講演会の講師をして下さった、いしいさん家の石井英寿さん。僕は普段、本や備品関係は、ネットで調べ購入することが多いのですが、不思議とその時は、いしいさん家へ直接FAXで注文しました。少し、メッセージ(ファンレターのような文)を添えて。すると、しばらくして電話が鳴り、「いしいさん家の石井です!本の注文、ありがとうございます!」と、石井さんご本人から電話がありました。僕は思わず興奮してしまい、まともに受け答えなどはできず、ただ、「む、昔からファンでした!」と、まるでアイドルへ向けての返事をしました。その瞬間、「講師、石井英寿さん」が、僕の頭の中で決まりました。直感で決めたというか、ただの願望だったのかも知れませんが、『とにかく絶対、講師に来てもらいたい!』との想いでした。

そして、僕の頭の中で石井さんが決まったところで、もう一人、講師としてお願いしたい方がいました。愛媛県西条市小松町でデイサービス、宅老所を運営されている、池さんの池内大輔さんでした。普段、大ちゃんと呼ばせてもらっているのですが、池さん、池内さんのことは、僕が介護の世界に入って、一年目の時に行った富山県で知りました。富山県と言えば、惣万佳代子さんが立ち上げた、富山型デイサービス「このゆびと一ま



れ」で有名です。お年寄りだけでなく、障がい者、子供たちが共に時間を過ごす、共生ケアを実践されているところです。富山県は、共生ケアからはじまり、普通の家で独自のケアをしている事業所(地域の居場所)が、たくさんありました。僕は、その日お世話になった人に、「愛媛にも皆さんがされているような場所はありますか?」とたずねたところ、『池さん』を教えてくださいました。実は、ぼっかぼか川之江との出会いも、この富山県から帰った後のことでした。(この話



は、またどこかで。)

お二人の講師は、僕にとって憧れの人でした。講演会ではあまり詳しく触れることができなかったのですが、今から4年前、全国から介護に熱い思いを持った若い人たちが集い(広島県にて)開催された、トークセッションのイベントで、実は石井さんと池内さんはお互いに出演者として出会っていました。このイベントが、後に映画化され、衝撃的な話ばかりで、特に若い介護職に、大きな影響を与えました。も

ちろん、僕もその一人でした。

日ケアの各センターで、支援されている方々の中には、介護保険制度ができる前から、介護に携わって来られた方は多いかと思います。制度ができる前と、制度ができた今とを比べ、何か感じておられるところもあるかと思います。そんな中、制度という枠にとらわれずに、柔軟に対応されている姿。何十年生きてきた今を、大切に生きて欲しい。不安と葛藤に押しつぶされそうになりながらも、一生懸命に今を生きようとしているおじいちゃん、おばあちゃんたちが、笑って暮らせるように。そんな一途な思いで、介護と向き合っている若い人たちがいるということを、僕は今回の講演会に、想いを込めさせてもらいました。

講演会のタイトル、「縁ある暮らしでより良く死ぬる」。縁というのは目に見え、形あるものではないですが、人との繋がりの中で、感じることはできるのではないかと考えています。そこを少し大切にすることで、その人や、その人と一緒に過ごす場所、時間までもが、愛おしく感じる事ができます。不思議ですけどね。ぽっかぽか川之江と初めて出会ったとき、「こんなに素敵の人が集まる場所が川之江にもあったんや。」と思いました。そしてぽっかぽか川之江にとって、大きな存在が日ケアだと知り、全国に同じ想いで始めたセンターがあることを知った時、人はこうやって繋がっていくのかと、実感した覚えがあります。なんとなくですが、この頃から、何か不思議な出会いや、繋がりを感じるようになりました。

最後になりますが、日ケアの方たちと、お会いすると、いつも元気をもらいます。全国に、頑張っている人たちがいる、同じ想いで頑張っている人たちがいる。そう思えてくると、なんだかできないこともできるような気がする。全国のセンターの方と繋がることができる。本当に凄いことです。この心地よい安心を、お年寄りの方、目の前の人たちにも、そっと感じてもらえるよう、これからも頑張っていきます。こんな風に考えている若者もいるのかと、文章を読んで、そのように感じて頂けると幸いです。また、愛媛にお寄りの際は、ぽっかぽか川之江に、是非遊びに来て下さい。フラダンスで歓迎致します!お待ちしております!

それでは、皆さん、またお会いできることを一同、楽しみにしております。

センターだより



まごころケア塩釜 日ケア総会に参加して

坂井 洋子

去年は、塩釜にお出でいただきありがとうございました。五月十四日の道後温泉での総会に参加し、会員の皆様にまた、お会いできとても有意義な日々でした。総会に先立っての「縁ある暮らしでより良く死ぬる」講演会 とても良かったです。また、夜の宴会では、皆様の活気あるお話や、若い方の楽しい司会、それに余興など疲れを忘れさせてくれました。

小旅行の松山巡り初めてなので、とても良かったです。企画していただいた、まごころケアぽつかばか川之江の皆様には、タクシーを用意して頂き、広島での原爆ドームや、広島平和記念資料館などタクシーの親切な運転手さんに案内して頂きました。御礼申



し上げます。事務局の前田様・旅行会社の方ありがとうございました。まごころケア塩釜は、小規模ですが元気なうちは、まごころを続けていきますので、これからもよろしくお願いいたします。

熊本の規模で、連日発生している地震に対して、地元住民の方々、ボランティアの方々、全ての支援の皆様さまごころケア塩釜のスタッフも、心より応援しております。

まごころケアサービス 福島センター

遠藤奈穂子

平成28年5月14、16日日ケア全国大会 in 松山に総勢19名で参加。14日、午前3時福島センターに集合。貸し切りバスで、暗い東北自動車道を走り、夜が明けて羽田空港に着いた。乗り換えなので、とても気を遣った。飛行機で松山空港に、リムジンバスで着いたつ会館に1時頃に着いた。講演会での若い池田さん、石井さんの思いの強さに感動した。その後、懇親会と総会、道後温泉を楽しんだ。しまなみ街道が雨で景色が見通せなかったのが心残りでした。お世話になりました。

5月29日(日)通常総会が、福島センターの「うららか広場」にて開催。役員改選があり、須田理事長は、退任され、遠藤奈穂子が新理事長になった。

当日、午後1時半より、「須田弘子



生前葬 並びに「復活式」が催された。藤で作られたエコの棺が祭壇に飾られ、弔辞、献花、献歌、合掌で、生前葬が終わった。復活式がはじまり、棺から須田さんが生き返り、激励の言葉や花束贈呈があった。

まごころサービス 岡山センター

石田 妙子

月日が経つのは、早いものです。私がまごころデイサービスで働かして頂いて早や十一年になります。その前にはヘルパーをしていたため一対一とは、違いがあります。お話を聞いた時、自分には、デイサービスが勤まるがか心配でした。しかしこの仕事が好きで、第二の人生は、少しでもお年寄りのために、私のような者で



デイサービスの皆様で作成した「申年の干支壁画」写真です。

も、何かお役にたてばと思い選んだ道だからと、心に決めて働く事にしました。第一にこの仕事が好きでないし出来ない事、第二に職員との和と信頼関係だと思いません。どんなに辛いことがあっても表に出してはいけません。利用者様の前では、明るくしていなければいけないと、私自身がいつも心掛けています。利用者様から色々と、教えを頂き勉強もさせてもらい明日への元氣のはげみにもなっております。私自身も元氣で体につけて色々の事に、チャレンジしていきたいと思っております。最後に、まごころデイサービスオリジナルの歌を紹介させて頂きたいと思えます。

「夏の思い出」
夏がくれば思い出す
遙か昔激動の
時代乗り越え片寄せて
家族と共に生きてきた
喜び悲しみ繰返し
駆け抜け夢みた平和な日本
今はおだやかまごころで
やさしい時を過ごしたい



まごころサービス 徳島センター

まごころ「救命講習会」5月29日(日)
ふれあい健康館、参加者20名

協力会員 尾峯千代枝

AEDの使用法について

講師は南消防署担当指導員の折坂政徳氏がわかりやすく説明と実技を教えてくださいました。

AED(自動体外式除細動器)とは、心臓がけいれんし、血液を流すポンプ機能が失われた状態(心室細動)の心

臓に対して電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。2004年7月より医療従事者ではない一般市民でも使用できるようになり、病院や診療所、救急車はもちろんのこと、空港、駅、スポーツクラブ、学校、公共施設、企業等、人の集まるところを中心に設置されています。



電気ショックは心室細動であればどんな時でも成功するものではありません。時間との勝負です。一分一秒でも早く電気ショックを行うことが重要です。ちなみに意識呼吸も無い場合は3分後から脳の細胞は死んでいきます。

救急車の到着までの全国平均は8分位。徳島は平均6分だそうです。近くに救急車がない場合や遠方から来る場合は20分かかることもあるそうです。8分後の電気ショックの成功率は20%です。一刻の猶予もありません。倒れた人の近くに居る一般人の勇気と決断と協力がその人の命を救うのです。

〈救急の手順〉

- ①意識・反応の確認(周囲の安全を確認する)
- ②助けを大声で呼び119番通報とAEDの依頼
- ③呼吸の確認
- ④心肺蘇生(胸部圧迫30回+人工呼吸2回)を繰り返す(AEDが届くまで) ☆人工呼吸が困難な場合は胸骨圧迫のみでも可
- ⑤AED装着↓心電図の解析↓電気ショック1回
- ⑥胸骨圧迫から心肺蘇生再開(救急車到着まで)



心から利用者様の役に立たれたと思った瞬間がある

ここに三豊福祉輸送サービス

池田 直子

私は仕事に就いて三年半、福祉輸送業務に携わっています。

最近利用者様のお役に立てた、と思つた瞬間があります。その利用者様は一人暮らしの方です。初めて訪問に行った時、サービス責任者やヘルパーの私と視線を合わそうとせず、クールな印象でした。通院の送迎も輸送を利用されているのですが、「いつもの病院へ行く途中で、娘を駅まで送りたいのでお願いします。」と連絡がありました。最近は一〜三ヶ月ごとに娘様が十日程帰省されています。当日、迎えに行くと娘様と出て来られており、帰りに歩いていたらスーパーまで行き、買いものをしたいから、とのことで老人車をトランクに積みました。駅に着くと、「私は降りて見送らないけど・・・。」と車に乗ったまま娘様に別れを告げられました。娘様は、切符を買うため駅構内に行き見えなくなりまして。しかし利用者様は奥に少し見える改札口をじつと見つめたままでした。ああ言つたものの、送る側としては改札を通る姿を見届けたいものかと思ひ、よく見える位置まで車を移動しました。

こちらに気付いたのでこちらは手を振りました。が、まさかまだ停まつているとは思わなかったのか、「どうしたの？」と、いぶかし気な顔でこちらに来ようとされたので私はとっさに「ホームに行くまで！」と叫びました。娘様はハツとしたような表情の後、恥ずかしそうな顔で笑い大きく手を振り歩いて行き、改札を出てもう一度振り返り笑顔で手を振りました。

車を出して、なんとなく利用者様の事が気になり、助手席の横顔をチラッと見ると、とても落ち着いた表情をなさっていました。私は少し待った時間は無駄でなかったのだ、と嬉しくなると同時にこの方にはまた一人の生活が始まるのだと思うと少し涙が出ました。

その後迎えの依頼の電話が「スーパーまで来てください。」とかかって来たときは本当に歩いてスーパーまで行かれたんだ。と心配しながら行きました。スーパーに着くと入口のベンチで大量の買物を抱え、こちらに気づき笑って挨拶して下さいました。思わず「(スーパーまで) いったんですね！」と言うと「五歩歩いては、立ち止まって歩いてきました。」と笑って話されました。



“こいこいクラブ”

こいこいクラブ 矢野 知子

幸せなことに、私も屋島やすらぎの、OB、OGにとつて屋島の麓に“こいこいクラブ”という居場所がいつも用意されています。そして、いつでもどこでも心の底から頼れる後輩が育っております。大変心丈夫で安心して生活ができています。

一年間の行事も会員の協力を得て楽しませて頂いております。それこそ陽だまりの縁側の風景があります。

昨年の忘年会は高松の西の高台にある「花樹海」を会場にしました。晴天に恵まれ瀬戸内海を一望でき、島々を船が行き交うのどかな様子を眺めながら一時を過ごしました。

また、今年の春の花見は、高松よりずっと西に位置する観音寺の「琴弾回廊」へ。途中、運転士さんの御好意により「不動の滝」のある櫻の公園に立ち寄りました。櫻はまさに満開で、不動の滝の水量も多く、香川にもこの様なすばらしい滝を見る事ができるのでたと感銘をうけました。来年はどうぞ皆様お出かけください。

高速道路を利用してJA屋島より一時間ほどの距離です。途中財田川の川沿いをバスで走りましたが、運よく川の水量もほどほどに、春の日差しが降り注ぐ中、幾種類の水鳥の群を眺めることができました。会場では窓から観



子連れの様子が伺い出が甦ってきました。本心に心が洗われる一日を過ごすことが出来、一同元気の元を戴いて帰路につきました。

段々と介護保険、医療保険の利用が増していく反面、国の財政は困窮していくことに危機感を持っております。屋島やすらぎは先輩たちのおかげで、早くから牛歩のごとく走り続けております。心からありがたく思っております。

皆様、“こいこいクラブ”に集いましょう。お待ちしております。

まごころ 孫子老だより

健康管理はユーモアと笑いで

みなさまお元気でしょうか 今年の夏も暑くなりそうです。中高校にとっては体調の崩しやすい季節になりました。しっかりと運動して、よく笑い、暑気払いで枝豆をつまみに冷たいビールでも一杯といきたいものです。また熱中症にならないように炎天下に長時間出かけないようにしてください。部屋にいる時も冷房をつけて隠れ熱中症にならないように気を付けて体調が変だなど思ったら早めに医療機関を受診しましょう。また、生ものよりも火の通ったものを食べるようにして食中毒などに注意して今年の夏も無事に乗りきましょう。

我が家の兄弟は、受験時期などが重ならないように、タイミングよく生まれてきておりがとうと我ながら感心しておりました。来春は二男が高校受験で長男が大学卒業、兄の携帯代やら学費負担から解放され、我が家の食卓も白米に漬物という生活からたまに肉か刺身でもと期待しておりました。ところが、下宿の電気料金の通知が実家宛てに毎月届くので死んではないかと安心していました音信不通の長男から突然のメールで「申し訳ない、留年確定です。」と緊急連絡が入りました。今年の大学生の就職率は近年になく売り手市場と紙面を賑わしていますが、まるで他人ごとのように空しくなりました。アルバイトに明け暮れていたのか、勉強していなかったか今となっては、後の祭りです。もはや、漬物も無いお茶漬け生活へ突入です。

結婚して20年以上も経つと、夫婦の日常も変わってきました。最近、理想的な夫



婦の形を完結したことに気が付きました、愛する妻が平気でオナラをするようになりしました。恥じらいもありません、私は新婚の時から始めましたので、屁をするたびに、彼女が「何よ！もう、外でやって」と叱られていましたが、やっと妻が追いついてきて、怒ることもなくなりました。私たちはとうとうオナラをやり合う仲になったのです。中高校の女性は、年とともにだんだんと開放的になっていくのですね。食品売り場でカートを舐めるように操縦して、おっさん達を押しつけるオバサマを見るたびに、うちの妻ではなからうかと一瞬立ち止まる時があります。また、愛妻は、私の顔を見るたび、あくびをするようになりしました。それが可愛らしいあくびなら気にもなりません周囲5メートルの空気を一気に吸い込むカバのようなあくびです。よくアゴが外れないものだと思心しますが、最近は何回かやたら多く、不愉快なので、「それは、嫌みなのか？私に何か訴えたいのか？」と尋ねたら「条件反射だ！」とのことでした。中高校になると、夫を見る度にあくびが出るようになるそうです。

物が片付かないタイプは、私のごく身近にもいますが、その物を見て大事と思うものでも、それが、パッと見てときめく物かどうかで仕分けていくと案外思い切

って捨てられると片付けの達人が言っておりました。我が家の冷蔵庫の半分は妻の物でいっぱいです。何を漬けているのか本人もわからないびん詰めやミイラ化した乾物など理科室の棚状態です。クローゼットのハンガーは、おそらく25年前に着ていただろうSサイズの服で溢れかえっております。ある時「体型的に合わない服をいつまでも置いておくのはなぜか？」と聞いたことがあり彼女は、「いつか着られるようになるかもしれないので処分できない」とのことでした。物理的に見ても隣の犬に聞いてもおそらくサイズ的に無理があるように思えるのですが、杞憂でしょうか。今度、彼女に冷蔵庫の中や昔の服を見てときめきますか？と聞いてみようと思います。おそらく、開口一番「まずは、あなたにときめかない！」というような気がするので、聞くのは辞めておきます。

中高校になるとそれまで思いもしなかったことが気になり始めます。風呂上りの抜け毛の量もしかり、テレビを見ると報道内容よりも関係者の名前の横に出る年齢が気になります。私と同年代なのに老けて見えるなあ、俺の方が若いな、とか年の割にしわが多いな、髪が多いしカツラかな？など、年齢と見た目をまます確認するような癖ができました。日に4回ほどおしっこをする。今日も快調だと思いますが、7回以上になると飲み過ぎか？頻尿？前立腺の異常？と健康面の変化に敏感になってきました。健康番組を横になって、菓子を片手に見ている妻の姿が、果たして健康的なのか疑問に思う

時もあります、やがて次男もこの家から巣立って夫婦二人暮らしが始まるかと思うと、いろいろな課題を態度で訴えているのかなと思うのでした。本当は一分ぐらいの茹で時間のブロックリーを5分以上も茹でたへ口への物かい方が消化にいいでしょー」と一蹴。スナップえんどうをスナックエンドウと言っていたら違うと指摘するので調べたら同じものでした。絶対に引かない妻の態度に、夫婦とは協力しながら生きていく運命共同体であり、妥協とは我慢することではなく互いを尊重していることである、伴侶の意見を聞いて自分から妥協することが中高年夫婦にとって大事であり。また、夫婦間の感謝に言いすぎることはないし感謝の言葉も「ありがとう」だけではないと。あるコラムで書いていたのを思い出しました。これからは、人生という山を下りていく時期に入った私にとって身近な人に感謝し、支え合い、ゆつくりと下っていききたいと思いました。

【孫から役立つ短縮ダイヤル番号です】

知っているようで知らない短縮電話番号をご紹介します。尚、一部IP電話や格安スマホなどからは、掛けられない場合があります。

- (110) 警察への事件・事故の急報【無料】
- (#9110) 警察への緊急でない通報・相談ごと
- (119) 火事・救助・救急車【無料】
- (118) 海上の事件・事故の急報【無料】
- (171) 災害時の連絡を伝言の録音により関係者に知らせる【無料】
- (#8000) 休日・夜間の急な子供の病気の相談【有料】
- (189) 児童相談所全国共通ダイヤル【有料】
- (#8139) バッテリーやガス欠など車のトラブルの相談【JAF有料】
- (#9910) 道路上の問題、動物の死骸崩落異常など【無料】
- (117) 時報【有料】
- (177) 天気予報【有料】
- (104) 名前と住所から電話番号を案内【有料】
- (115) 電報の申込み【有料】
- (114) 相手の電話が話しかどうか調べてくれるサービス【有料】
- (184) 相手の電話番号の前に付けると、自分の番号が非通知になる
- (186) 相手の電話番号の前に付けると、自分の番号が相手に表示する
- (#8080) 人間関係・高齢者・相続などの相談【高齢者相談センター】
- (188) 悪質商法・製品・サービスなどの消費者トラブルの相談

【孫から面白川柳を紹介します】

(第一生命サラリーマン川柳・シルバー川柳より)

「まあ聞けよ」もう聞きました 5回ほど
男より トイレ磨けと 妻が言う
我が家では イエスカハイの 二択制
辞書にない 難読難解 生徒の名
トライして ずっと寝たママ ごろん丸
退職金 もらった瞬間 妻ドローン
肌年齢 母とまさかの 同い年
定年後 帰りは何時? 聞く側に
子が巣立ち 妻と二人の シェアハウス
切れない縁 抜けない指輪 似る体型
妻が見る 「きょうの料理」 明日も出ず
親からの お土産いつも 縁結び
無駄が無い 妻の言葉と 渡す金
割り勘か 投資か悩む 初デート
また飲み会? 電話の声は 嬉しそう
オークション 勝手に売られた コレクション
愛犬も 家族の番付 知っている
気を遣い 妻を目で追う オレとイヌ
娘来て「誰もいないの?」 オレいるよ
カーナビよ 見放さないで 周辺で
年賀状 出さずにいたら 死亡説
長生きを 褒める世間に 子は疲れ
壁ドンで スポンの履き換え やつとでき
三度目は 聞えたふりの 半笑い
人生に 迷いはないが 道迷う
お互いに ボケかトボケか 気が付かず
アルバムに 遺影用と 付箋あり
俺だって 死ねば弔辞で 褒められる
薄味を 愛だと知った 四十年

このたびの熊本・大分の震災で被害を
あつた住民のみなさまに心よりお見舞い
申し上げますとともに一日も早く安心で
きる日常生活が訪れますようお祈り申し
上げます。微力ながら自分にできる支援
を今後も続けていきたいと思っております。
また地震はいつ身近に起こるかわか
りません、災害時の避難場所、連絡先など
確認し、もしもの時に備えましょう。みな
さまがお元気で楽しく健康で暮らせます
ようお祈り申し上げます

孫子老太郎



介護保険業務の
様々なご要望にお答えします

介護保険トータルシステム「Rely II」

株式会社
アール・シー・エス

高松市錦町2丁目2番17号
西日本放送錦町ビル
TEL:(087)804-8811
FAX:(087)826-5010

はじめまして
まいたうんメール便
です

高松メールセンターからのご案内

メール便... **ハガキ** **封書** **カタログ** など

**激安価格で
配達します**

お問い合わせは
こちらから **四国メールネットワーク協同組合**
(有)タウンネット 高松メールセンター
高松市朝日町4丁目10番60号
TEL.087-813-0426 FAX.087-813-0436
E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp
http://www.shikoku-mp.com/

www.sanuki-taberu.net

**讃岐を
食べる
なつし**

ごだわりぬいた初夏の味
みかんのうまいもんを直選します!

www.sanuki-taberu.net

株式会社 ウエイ企画 〒760-0062香川県高松市堀上町2-2
TEL:087-837-1159 | FAX:087-897-3007
コーポレートサイト http://www.network-way.com

あいおいニッセイ同和損保代理店

(株)フリーエージェント

八田 和忠 

損保・生保・社会保険労務士
扱っています。

高松市伏石町 2028-2
TEL 087-816-8123
FAX 087-815-1171

～やさしい機能で自由なお出かけを～

Welcab

アクア **AQUA** 福祉車両
助手席回転シート車【Bタイプ】



詳しくは、香川トヨペットまでご連絡下さい。

香川トヨペット 

TEL : 087(882)5555 イバラまで
お電話ください。

総合印刷・イベント事業・マニュアル制作
デジタルコンテンツ企画制作

SEIKO-SHA

株式会社 **成光社** 
高松 東京

〒760-0065 高松市朝日町5-14-2
TEL 087-823-0222 FAX 087-823-0211
www.seiko-sha.co.jp



四国中央医療福祉総合学院
愛媛県四国中央市中之町1684-10
TEL.(0896)24-1000 FAX.(0896)24-1007

学生募集

- 理学療法学科 (3年制) ●作業療法学科 (3年制)
- 言語聴覚学科 (3年制) ●看護学科 (3年制)
- 介護福祉士養成科 (通信: 6ヶ月)
- 社会福祉学科 (通信: 1年8ヶ月)
- 精神保健福祉学科 (通信: 9ヶ月/1年8ヶ月)

**介護福祉士実務者研修 (通信 6ヶ月)
受講生募集中**

詳細はホームページ: www.rwf.ac.jp

地域とともにこれからも。

あつて
おはなしすると
もっと
つたあるね



香川銀行
トモニホールディングス

消防設備士の店

**四国防災設備
有限会社**

消防設備保守点検

〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地
TEL.(087)898-3913
FAX.(087)898-8801

ご利用ください。

- E-mail (電子メール) ●


magokoro@hyper.ocn.ne.jp

- URL (ホームページ) ●


http://www.jp-care.gr.jp

各センターからのお知らせ

まごころサービス倉敷センター

平成28年4月1日より河野さんから今田さんにセンター長が変更になりました。

平成28年4月からセンター長を引き継ぐ事となりました今田実香です。5月のセンター長会議でも、兼間会長をはじめ、皆さん温かく迎えて頂き嬉しく思いました。まだまだ気が付かないところも多く未熟者ですが、前任者である母河野厚子に習いながら、一緒に頑張っていたらと思っております。

これからもよろしくお願ひします。

今田 実香

全国まごころケアネット
 特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
 まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jmss@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころケア国見	〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字南54-2	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドゥール第2 107号		043-274-9711	043-274-9718
まごころケア横芝	〒289-1738 千葉県山武郡横芝光町鳥喰上2283		0479-82-1762	0479-82-1835
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@eto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころケア加古川	〒675-0062 兵庫県加古川市加古川町美乃利409-28	tera1954-masa@beige.plala.or.jp	0794-24-9150	0794-24-9150
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	ma11ka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアはびねす・ まんのう	〒766-0021 香川県仲多度郡まんのう町大字四條615-4		0877-75-4322	0877-75-4343
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-59-1150	0896-59-1150

「日本ケアシステム協会」会報

平成28年6月30日 発行No.136

発行所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL 087-815-0771 FAX 087-815-0773
 編集発行人 兼間 道子
 郵便振替 口座番号 01610-0-92689
 印刷所 (株)成光社

まごころケア高松

NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL 087-865-8001 FAX 087-865-8039
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp
 URL http://cho-jyu.info/